

【2日目/5月23日(つづき)】

下船が近づくと、船長さんが面白いものを見せてくれました。



何とこれ「シジミ」なんだそうです。味噌汁椀に入らないどころか、シジミそのものがお椀に使いそうな大きさです。お味はどうなのでしょうね？



仲間川にはカヌーを楽しむ人も多いです。とても楽しそうでした。仲間川には浅瀬や支流も多く、そういう場所には観光船は入れないので、次回はカヌーに乗ってみたいなあと思いました。



およそ1時間の「ジャングル・クルーズ」を終えて、

待っていてくれた観光バスに乗り込みました。至れり尽くせりで、何も心配のない西表島観光です。



バスは自由席なのですが、不思議なことに最初に座った席にみんな行儀良く座っています。私は最後に乗り込んだのですが、私の座った最前列はちゃんと空いていました。有難いことです。



石垣島よりも南や西の八重山列島の島々には、スーパーもコンビニもありません。もちろん、大学生協もビー玉(喫茶店)もバンビ(レストラン)もありません。そのかわり、集落ごとに「共同売店」というお店があって、生活用品や食料品を購入できるのです。



次に向かうのは「由布島(ゆぶじま)」です。仲間川の船着き場からバスで10分ほどです。島には路線バスもありますが、やっぱりヤマネコラッピングでした。今回「イリオモテヤマネコ」には出会えませんでした。

した。夜行性で山の中に住んでいるので、地元の人でも7～8年に1回、見るか見ないか・・・という頻度の超レアな動物なのだそうです。自動車道で目撃があると、役場の人が「ヤマネコ注意」という看板を設置するのだそうです。

営業時間 9:15～16:30  
※入庫最終 15:45

＜水牛車定期便 時刻表＞

西表島発 (行き)	由布島発 (帰り)
9:15	-
9:45	10:00
10:15	10:30
10:45	11:00
11:15	11:30
11:45	12:00
12:15	12:30
12:45	13:00
13:15	13:30
13:45	14:00
14:15	14:30
14:45	15:00
15:15	15:30
15:45	16:00
-	16:30

注意事項  
CAUTION  
水牛の角が鋭く範囲には近づかないで  
KEEP AWAY from around the HORNS!  
水牛が揺る動くと危険な場合があります。距離や状況に応じて安全距離を確保してください。

水牛に触らないで  
DO NOT TOUCH the WaterBuffalos!  
口除け禁止  
ご乗車ご協力をお願いします。

注意事項  
CAUTION

「由布島」は、離島である西表島の更に離島です。離島といっても目と鼻の先で、しかも浅瀬の海で隔てられているので、船ではなく「名物水牛車」に乗って渡ります。日本唯一の「水牛車時刻表」ってのがありました。路線バスよりもずっと本数が多いのがすごいです。水牛車の時刻表は、個人旅行者のためのもので、実際は観光バスで着いた団体の場合、随時発車(正確には「発牛」)してくれます。

水牛メインメンバー

いつも水牛を引いてくれる水牛さん達を紹介！  
どの子に会えるのかな？

- こしろう
- げんき
- みらい
- むさし
- ゆうか
- あんり
- ゆい

水牛車を引ける

- [1才頃] 練習開始！  
人間でいうと 8才くらい  
人と散歩  
軽い鞍を背にかけ
- [2才頃] 本物の鞍を背に掛ける  
人間でいうと 12才くらい
- [2才半頃] 西表島渡り  
人間でいうと 20～25才くらい  
最初は無人の水牛車に乗せる人
- [3～5才頃] デビュー  
人間でいうと 20～25才くらい  
お客様を乗せて  
だいたい、オス
- [20才頃] そろそろ引退  
人間でいうと 70才くらい

車を牽く水牛はたくさんいて、年齢や性別、性格、それに車の牽き方の癖までがちがうそうです。



海の上に電柱がたくさん立っているのが面白いと思いました。現在由布島には定住者はいませんが、よく見ると「光ケーブル」まで通っているのが現代的だなあと思いました。



これが「噂の水牛車」です。お客さんは1台で20人ぐらまで乗れます。どんなに乗っても牽くのは水牛1頭です。



水牛車は浅瀬の海の上を、非常にゆったりと歩きます。実は由布島側には、水牛がゆったりと休めるプール(池)があるので、「往路」はその水牛も張り切っていて、頑張っている歩いています。帰りはとても遅かったです。時々立ち止まるのは「トイレ」の時です。



個人旅行者の場合、水牛車は往復で千何百円かします。中には海を徒歩で渡る「ツワモノ」の旅行者もいました。私も次回は試してみたいと思いました。